

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	国防科学研究班報 : 部報
Author(s)	山下
Citation	龍南, 252 : 70 - 70
Issue date	1942-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/8535
Right	

つたが實力は不斷に養はれて來又養はれつゝある。此の努力が實を結ぶのも目前にある。一度部として獨立した曉、養ひ來つた成果が如何に發現開花するか、全龍南諸兄の御期待を乞ふと共に屈して營々として精進を續けつゝある機械班に對する認識を新にして戴き度いと思ふ。

國防科學研究班報

文二ノ一 山下

『龍南』發行を機會に國防科學研究班の創立について一言し、その目的を全龍南に明かにしたいと思ふ。

三年でさへ困難な通信修技及訓練に加へて通信學理の研究、龍南三年又四年は僅かに二年その上運動不足の問題を如何に解決するかは通信部の直面せる大問題であつた。よつて七月私は視號通信、有線電話訓練を加へて通信部を實踐訓練部たらしめんと決意し、而して部の發展上ゆがせにすべからざる理論學理の研究は他の機關によるを適當と認め、通信研究會の設立を高津部長に相談した。所が部長の意嚮も全く同じであつたので早速具体案を提出したが、將來航空無線の研究を目標とする關係上、航空部に研究班の設立と航空機・航空氣象研究の趣旨を提示し賛同を求めた所、『航空部の意嚮としてはこの試みは今までなすべくしてなす能はざりし舉なり。この度通信部率先してこの舉を致さる、吾人慶賀にたえざる所也。吾人すくなくも高校生の人なさんとする航空訓練は毫も上手なるパイロットたらんとするが如きゲチな考を

有せず、單に技術上の問題を云々するが如き小見は吾最も忌むべき所なり。されど、徒に技術以上のもの、いはゞ航空道とでも言はんか、かゝる精神上の何ものかを得んとして足地につかず、誇大妄想の如き氣分にふけらんは吾人又之を遺憾とす。絶えざる研究心足の地についた絶えざる努力必要なり。航空技術の研鑽もとり然り。然して高校生なるもの航空の技術を研究するにありては更に深く科學的檢討をなすべくんばあらず。氣象觀測の如きは其の最良なる、之にすぐるなし。航空部舉げて賛意を表する事かくの如し。更に進んで空航機そのものの學術的研究にまで進んか至れり盡せりと存ずる次第」

なる全面的賛同を得、七月十日檄を發し全龍南から班員を求めた。かくて我が通信科學研究班は七月十六日、國防科學を振興し以て國防訓練各部の理論的發表を期し、且同各部の提携を緊密ならしめる目的を以て歴史的發足をなしたのである。

現在班員約五十名、通信科と航空科に分れ、通信科に於てはスパーク・ヘテロダイン受信器・ビート受信器・無線機・通信修技の心理的研究・宣傳・暗號等の研究を行ひ、航空科に於ては航空力学・機体理論の研究を行つてゐるが更に氣象研究科を準備中である。年數回總會を開き研究報告をなす外、通信科と航空科の研究交換更には本班主催の下に航空部と通信部の交換教育も實施する計畫をたててゐる。

未だ内容も貧弱で研究材料も少ないため、班員外に公開する事は困難であるが、近く自動車科の増設に伴ひ、正式の名稱も國防科學研究班と改め、本班設置の目的達成のため更に絶えざる研鑽を行ひ、諸賢の御期待にそふ心算である。